

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況を迅速に伝えるために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容をまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

沼津高架 PI プロジェクト

沼津駅周辺地区第3回勉強会

開催概要

3月2日（土）、沼津駅周辺地区にて第3回勉強会が開催され、23名が参加しました。また、PI委員会からは石田委員長が出席されました。

冒頭で、ステップ2における勉強会のとりまとめとステップ2に関する県の成果発表までの流れを確認した後、前回に引き続き3グループに分かれて議論しました。初めに勉強会のとりまとめ案について確認し、戦略課題では賑わいは「取り戻す」のではなく「新たに創造する」という前向きな表現が相応しいといった意見が出されました。その後、ステップ3（代替素案と評価項目）に関わる議論が行われ、「地域づくりの目標」を達成し課題を解決するための方策について話し合われました。

ステップ3に関わる議論では、初めに検討する対象領域について話し合わせ、対象を沼津駅及び駅前に絞り込む以前に、駅周辺地区全体を俯瞰してゾーン毎の役割やつながりを踏まえ、その上で駅前や鉄道高架をどうするのかを議論する必要があることが指摘されました。駅前に限らない大きなゾーンの中に、食や歴史や文化に関わる施設や公園などを核として回遊性を創ることや、駅の南側のゾーンを総合的にマネジメントとして活力を生み出し、全体的に流れを生み出すとの考え方が議論されました。

その後、地域づくりの目標や戦略課題に照らした議論が行われました。駅周辺地区の「賑わい」に関する議論では、沼津駅に沼津の「顔」を作る仕掛けとして、総合整備事業で生まれる土地の共同化を図り、効率的に住宅、商業、緑地、公共施設や、健康・スポーツ施設などの集客拠点を創出するアイデアや、総合整備事業の代わりに駅の上に人工地盤を設けて広い空間を生み出すなどのアイデアが提案されました。なお、既に事業が進んでいる区画整理事業区域では、住民の移転が進んでコミュニティが壊れ、小売店なども撤退したため不便になっているなどの切実な状況を訴える意見もありました。

駅周辺地区の居住人口については賑わいの創出のために不可欠との認識を改めて確認した上で、駅前の地価が高く居住地として手が届かないのではないかと懸念や、駅周辺地区全体で居住者を増やす方が必要との意見もあり、地価負担を減らす定期借地権付住宅を活用するアイデアも出されました。

駅周辺地区や駅前の「移動性」についての議論では、歴史や食を活かして蛇松緑道や狩野川沿いを整備するアイデアや、地下に降りずにすむスクランブル交差点等の提案など、徒歩での回遊性を生み出すための様々なアイデアが話し合われました。また、駅前や中心部に歩行者・自転車の優先ゾーンを設ける提案とともに、自動車や公共交通でのアクセスも重要だという意見もありました。南北交通に関する課題については、鉄道高架化の他、道路をオーバーさせる案などの提案がなされました。

戦略課題のうち「安全・安心」に関しては、1階が店舗の中高層住宅を駅前に配置して災害時の避難場所とする提案や、地下歩道を備蓄倉庫として活用する案などが出されました。

最後に、石田委員長から、様々なアイデアが幅広く深く考えられていることが印象的であったことや、交通の問題だけでなく居住や産業などの様々な要素が複雑に絡み合っていることを改めて共有できたのではないかと、また、今日の議論の内容が個々の点（ドット）であるとするなら、それらを全体の中で位置付け、つなげて一枚の絵にしてほしいことなどのコメントをいただきました。

次回（4月13日（土））は、今回の議論を踏まえて、「地域づくりの具体的方策（代替素案）の整理」と「評価項目」について検討が行われる予定です。